

栃木県女子神職会

設立五周年記念誌

印刷所
(株) 益子印刷



「設立五周年を迎えて」

栃木県女子神職会

会長 荒川 濱子

天皇陛下御即位二十年の佳き年に、
栃木県女子神職会も五年という節目を
無事迎えることが出来ました。御指導
いただきました諸先輩方、周囲の皆様
のお力添えにより、活動できますことを
深く感謝申し上げます。平成十六年の
設立の次年度には、全国女子神職協議会
関東地区女子神職研修会の当番県となり、
幾多の困難に出会いましたが、会員一同、
多くの事を学びながら勤めることが出来
ました。

会員数も年毎に増えて、現在三十九名
で活動しております。本年は設立五周年
記念事業として、那須御用邸の勤労奉仕
作業に参加いたしました。当日はお天気
にも恵まれ、早朝からの作業も清々しく、

参加者一同心を一つにして、御奉仕申し
上げ、心に残る一日となりました。

女子神職として、当初の目的である、
神社神道の発展に寄与するとともに、
会員相互の親睦など、横のつながりが輪と
なり、そして和につながり、更なる十周
年に向けて、一人一人が研鑽の場として、
意識を持ち続けることのできる当会に成長
できますことを願っております。

今後も、皆様との絆を深めるとともに、
精進を重ねて神明奉仕に努め、日々変化し
多様化する社会にあつての斯道隆盛のため、
頑張つて参ります。

今後とも末永く御指導いただけます
よう、お願い申し上げます。





「那須御用邸勤労奉仕に参加して」

栃木県女子神職会 監事

八坂神社 権禰宜 蒨 田 容 子

「那須の山そびえてみゆる草原に

いろとりどりの野の花はさく」

昭和三十八年歌会始にて昭和天皇陛下が、お詠みになった御製です。那須の自然をこよなく愛された陛下のお気持ちが伝わってくるようです。

今回、栃木県神社庁教化委員会様のお力添えにより、栃木県女子神職会設立五周年記念事業として、平成二十一年六月十九日、女子神職会々員の有志十一名が那須御用邸勤労奉仕をさせて頂きました。

穏やかな天気の中、他の参加者の方々と共に、御用邸責任者の方から、施設等や作業の注意事項などの説明を受けながら、草むしりや落葉拾いなど微力ではありましたが、奉仕作業をさせて頂きました。

御用邸内の質素儉約のご様子や、自然が大切に保たれているあり方は、神社に奉仕する者にとって無言の教えをいただきました。私達は、昭和天皇陛下の御遺徳と、今上陛下の大御心に包まれて、貴重な時間を過ごさせて頂いたとき、五周年記念事業はとても有意義なものとなりました。

最後に、栃木県神社庁並びに、温泉神社宮司人見昇三様に心より御礼申し上げます。



那須御用邸勤労奉仕 平成21年 6月19日



「関東地区女子神職研修会
開催にあたり」

栃木県女子神職会 副会長

古峯神社 権禰宜 石原 方恵

栃木県女子神職会の発会から二年、全国女子神職協議会
関東地区女子神職研修会が、平成十八年三月十四日、鹿沼市
古峯神社に於いて開催されました。関東地区の女子神職の
皆様を、本県にお招きすることになり、当会も、桜岡会長を
中心に充分な会議を重ね、研修会を開催させて頂きました。
当日は、太平山神社宮司・栃木県神社庁副庁長・小林一成様に
「今、問われる教育問題」と題し講演を頂き、その後、各県の
活動報告を行いました。

これまで女性の神職といえば、社家の継承問題上神職に
なるケースが多かったと思われませんが、近年では社家ではない
女性が神職を志し、階位を取得、氏子さんから信頼を得て、
宮司として活躍されている女性の神職も増えていると聞きます。
また女性の神職数は、全神職数の一割を超え、年々増加
の傾向にあるそうです。

今後、神社界において、女子神職の責務も益々大きくなっ
ていくことでしょう。私たちは、更なる研鑽を重ね、斯道の
発展に努めていかなければならないと思います。





「五周年記念誌発刊に想う」

栃木県女子神職会 監事

八幡宮 禰宜

栗原 宏子

神社の杜から西に広がる水田に、早苗が一面に緑をつくり、山々を背に、田を抜けて風が吹き渡る。

五年前、五月の一層さわやかな日、栃木県女子神職会が発会しました。他県には、大きく遅れてのことでした。長年の諸先輩方のご努力と、多くの方々のお力をいただき熱い想いで発会となったのです。

発会前は、他県の女子神職研修会に出来る限り参加するよう心がけました。当番県の方々が、整然と気迫を持って動かれる姿に圧倒され、力をいただき多くのことを学びました。発会後は、中央の研修会に参加する会員も多く、貴重な体験報告をいただき感謝に耐えませんでした。

また、会にあつては、日常の疑問を話し合い、確認・納得しながら、今日まで参りました。そして女子神職の在り方を学びながら、自分自身どうあるべきか、模索する日々となっております。

会を運営することは大変な苦勞がついてくると思いますが、現在のこの輪を大切にして清々しい集いの場、学びの場として成長して行くことを念じつつ、日々の神明奉仕に励みたいと思っております。



祭式研修で伊勢神宮を訪れて

増淵 充恵（瀧尾神社）

伊勢の地は、静寂の中に不思議な精気を感じる処である。二千年という想像もつかない程の悠久の昔から「日別朝夕大御饗祭」等、一日も休む事なく祭祀が営まれてきた。研修前日夕刻、近鉄宇治山田駅に到着し内宮に向かった。五十鈴川は澄んでいてキラキラ光っている。俗界と聖域との掛け橋である宇治橋は、虹のかけ橋のように丸く登って降りて行く。夕方なので参道は全く人影はない。御正宮前の石段を登りつめ参拝しようとした時、一人の中年男性が敷石に坐し泣きながら額づいてる姿が目に入った。嗚咽まじりに、「どうか神様助けて下さい。」

以前にも同じように一心不乱に祈りを捧げ、号泣し助けを求める女性の光景があったことを思い出した。しみじみ神職とは、精神的な安定を誘導する媒介者であり、重大な責任があると実感する。日本の総氏神様の鎮座されたことにより多くの人々が救われてきたことだろうと感謝の気持ちでいっぱいである。

長い歴史伝統の構築している伊勢の地で、色々な思いを抱き研修に臨んでいる女子神職の方々に接し、自分を見つめ直しつつ、激励の言葉をいただきながら心を研ぎ澄まされていくようであった。神様から与えられた体験を通し、共に励んだ女子神職の方々との交流の中から新鮮な自分に再生することが出来たように思う。



平成21年女子神職祭式研修会 7月16日～18日 於：神宮道場

神道行法練成研修会に参加して

齊藤 恵子（芳賀安住神社）

この研修は、毎年八月の初め頃に奈良県天理市布留町の石上神宮で行われます。全国から三十名程が参加し、行法の初歩からの説明の後、禊・行法・鎮魂が二回あります。夜中の行法もあります。

ふつうは中堅神職研修が終わらないと受けられませんが、女子神職会で一泊二日ですぐに受けられるのは有り難い事です。初めての人でも一から丁寧に教えられる、行法も一つ一つ型があり指先まで意識がゆきます。型を崩さず継承してゆく大切さも感じます。禊によつてさらさらと心と体が解れてゆき、鎮魂行法では、国宝の拝殿の中で古代の舟底の様な天井に包まれて、昔の空気さながらに研修が行なわれます。息の仕方の大切さや体の中の気の意識を通して自分を見直す事ができます。鎮魂は魂を振り動かして増幅し、しっかりと止め置き事として、昔は病気を治したり生き返らせたりする方法と考えられました。ぜひ一度体験してみてください。



平成20年神社本庁総合研究所主催女子神職神道行法練成研修会 8月11日～12日 於：石上神宮

発会からのあゆみ

平成十五年度

七月二十八日 発起人会立ち上げ
八月 二十日 栃木県神社庁長へ結成の支援願い
九月 一日 第一回設立準備会(於八坂神社)
十二月 十九日 第二回設立準備会(於八坂神社)

平成十六年度

三月 二日 第三回設立準備会(於八坂神社)
三月 四日 栃木県神社庁理事会に出席し承認を受ける
五月 六日 発会準備・習礼(於神社庁)
五月 七日 栃木県女子神職会発会式(会員三十七名)
奉告祭斎行(於栃木県神社庁)

発会式奉告祭

斎主 一瓶塚稲荷神社 安蘇谷章子
典儀 熊野神社 後藤 清美
祭員 瀧尾神社 増渕 充恵
祭員 住吉神社 荒川 千裕
祭員 智賀津神社 外鯨 泰子
雅楽 八坂神社 葭田 容子
雅楽 白鷺神社 大貫友紀子
雅楽 古峯神社 森谷めぐみ

式典(於宇都宮二荒山会館)

五月二十七日 全国女子神職協議会教養研修会参加(於神社本庁)
二十八日 全国女子神職協議会代議員会参加(於神社本庁)
六月 十七日 第一回総会(於八坂神社)
教養研修会 講師 神社庁主事 堀口邦夫先生
十月 四日 第三回祭式研修会(於神社庁)
講師 日光二荒山神社禰宜 齊藤芳史先生
三月二十三日 関東地区女子神職研修会参加
(於群馬県一之宮貫前神社)



平成十七年度

- 五月二十五日 全国女子神職協議会教養研修会参加(於神宮会館)
 二十六日 全国女子神職協議会代議員会参加(於神宮会館)
 六月 十七日 第二回総会(於八坂神社)
 教養研修会「大祓式」講師神社庁主事 堀口邦夫先生
 八月八、九日 神道行法研修会参加(於奈良県石上神宮)
 十月 四日 第四回祭式研修会(於神社庁)
 講師 宇都宮二荒山神社禰宜 柳田文司先生
 三月 十四日 関東地区女子神職研修会当番県(於古峯神社)



平成十八年度

- 六月二十六日 全国女子神職協議会教養研修会参加(於神社本庁)
 二十七日 全国女子神職協議会代議員会参加(於神社本庁)
 六月 十七日 第三回総会・懇親会(於八坂神社)
 十月 二日 第五回祭式研修会(於神社庁)
 講師 日光二荒山神社禰宜 齊藤芳史先生
 一月二十五日 臨時総会・役員改選(於八坂神社)
 新年会(於宇都宮グランドホテル)
 三月二十六日 関東地区女子神職研修会参加
 (於埼玉県川越氷川神社)

平成十九年度

- 五月 九日 日本会議参加(於護国神社)
 五月 三十日 全国女子神職協議会教養研修会参加(於神宮会館)
 六月 一日 全国女子神職協議会代議員会参加(於神宮会館)
 六月 六日 第四回総会・懇親会(於八坂神社)
 六月 十二日 栃木県神社庁清掃奉仕(於神社庁)
 八月二十二日 伊勢神宮式年遷宮奉賛会栃木県支部設立総会参加
 (於宇都宮二荒山会館)
 十月 四日 第六回祭式研修会(於神社庁)
 講師 宇都宮二荒山神社禰宜 柳田文司先生「地鎮祭について」
 関東地区女子神職研修会参加(於東京都日枝神社)
 三月 十日 栃木県青年神職むすび会設立四十五周年記念
 式典参加(於宇都宮二荒山会館)
 三月 十二日

平成二十年度

五月二十七日 全国女子神職協議会教養研修会参加（於神社本庁）

五月二十八日 全国女子神職協議会代議員会参加

二十八日 全国女子神職協議会設立二十周年記念大会参加
（於東京都ホテルニューオオタニ）

六月 三日 第五回総会・懇親会（於八坂神社）

八月十二日 神道行法研修会参加（於奈良県石上神宮）

十月 四日 第七回祭式研修会（於神社庁）

講師日光二荒山神社禰宜齊藤芳史先生「装束について」

二月 十日 新年会（於東日本ホテル）

三月十一日 第一回研修旅行（神奈川県箱根方面）

箱根神社正式参拝

十一日 関東地区女子神職研修会参加（於神奈川県寒川神社）

平成二十一年度

六月 三日 第六回総会・懇親会（於八坂神社）

六月 十九日 設立五周年記念事業 勤労奉仕（那須御用邸）

七月十六日 女子神職祭式研修会参加（於三重県伊勢神宮）

八月十二日 神道行法研修会参加（於奈良県石上神宮）

十月 二日 第八回祭式研修会（於神社庁）

講師宇都宮二荒山神社禰宜柳田文司先生「祝詞奏上について」

二月二十二日 臨時総会・役員改選（於神社庁）

新年会（於東日本ホテル）

三月 三日 関東地区女子神職研修会参加（於山梨県武田神社）

三月 日 臨時総会・役員改選（於神社庁）

祭式研修会

第6回



第7回



第一回研修旅行（神奈川県箱根方面）



栃木県女子神職会 歴代会長



初代
温泉神社
宮司 櫻岡 静子



二代
一瓶塚稻荷神社
権禰宜 安蘇谷 章子



三代
住吉神社
宮司 荒川 濱子

平成20～21年							平成19年							平成16～18年							年		
事務局長	事務局長	事務局長	監事	監事	副会長	会長	事務局長	事務局長	事務局長	監事	監事	副会長	副会長	会長	事務局長	事務局長	事務局長	監事	監事	副会長	副会長	会長	役職
安住神社	瀧尾神社	熊野神社	八坂神社	八幡宮	古峯神社	住吉神社	安住神社	瀧尾神社	熊野神社	八坂神社	八幡宮	古峯神社	住吉神社	一瓶塚稻荷神社	瀧尾神社	熊野神社	八坂神社	八幡宮	古峯神社	住吉神社	一瓶塚稻荷神社	温泉神社	本務神社名
権禰宜	権禰宜	宮司	権禰宜	禰宜	権禰宜	宮司	権禰宜	権禰宜	宮司	権禰宜	禰宜	権禰宜	宮司	権禰宜	権禰宜	宮司	権禰宜	禰宜	権禰宜	宮司	権禰宜	宮司	職名
齊藤恵子	増渕充恵	後藤清美	葭田容子	栗原宏子	石原方恵	荒川濱子	齊藤恵子	増渕充恵	後藤清美	葭田容子	栗原宏子	石原方恵	荒川濱子	安蘇谷章子	増渕充恵	後藤清美	葭田容子	栗原宏子	石原方恵	荒川濱子	安蘇谷章子	櫻岡静子	氏名

栃木県女子神職会会員名簿

支 部 名		本務神社名															職 名		氏 名																			
宇河支部		八坂神社	椎橋 宜	葭田 容子	高麗神社	椎橋 宜	多田 めぐみ	智賀都神社	橋 宜	外 鯨 泰子	今宮神社	宮司代務者	半田 公子	白山神社	宮 司	中山 成子	白鷺神社	椎橋 宜	上野 和子	齊藤 恵子	鹿島神社	橋 宜	塩田 祐子	荒井 享子	西形 千代子	望月 範子	佐藤 明子	岩松 史恵	渡辺 渥美	永島 晴美	小堀 実香	和気 裕美	橋 宜	長倉 サノ	長倉 澄子	宇賀神 由記子	大田原神社	椎橋 宜
芳賀支部		安住神社	椎橋 宜	荒井 享子	安住神社	椎橋 宜	西形 千代子	安住神社	椎橋 宜	望月 範子	喜連川神社	宮 司	佐藤 明子	津島神社	橋 宜	岩松 史恵	渡辺 渥美	生駒神社	宮 司	永島 晴美	水 神 社	椎橋 宜	小堀 実香	星宮神社	椎橋 宜	和気 裕美	高原山神社	橋 宜	驚子山上神社	橋 宜	驚子山上神社	橋 宜	北那須支部	大田原神社	椎橋 宜			

平成二十二年 三月三十一日 三十九名	下都賀支部												上都賀支部					支部名		
	安佐支部		星宮神社	熊野神社	雄琴神社	八幡宮	須賀神社	住吉神社	住吉神社	藤岡神社	三毳神社	村檜神社	村檜神社	猿田彦神社	瀧尾神社	古峯神社	古峯神社	古峯神社	古峯神社	本務神社名
	一瓶塚稻荷神社	唐澤山神社																		
権禰宜	権禰宜	禰宜	宮司	権禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	宮司	権禰宜	宮司	権禰宜	宮司代務者	禰宜	権禰宜	出仕	権禰宜	権禰宜	権禰宜	権禰宜	
安蘇谷雅子	佐野由希子	小林登美	後藤清美	黒川寧子	栗原宏子	沼部加寿子	荒川千裕	荒川濱子	鈴木和子	荻田永子	松尾史恵	寺内法子	小林まり江	増渕充恵	黒本裕子	奥村彩子	石原奈央子	石原方恵		

編集後記

本会が発足し、早や五年の年月が経ちました。

この度、設立五周年記念事業の一つとして、この記念会報誌が会員の皆様、又お忙しい中で寄稿下さいました役員の皆様方のご協力により、ここに発刊できましたことを感謝致しますと共に、深く御礼申し上げます。

顧みますと、行ってきた事業内容の一つ一つ、又多くの会員が参加できての実行という難しさはありますが、神明奉仕に励む同じ仲間として、これからも共に学び、心豊かに、明るく楽しく一歩一歩歩んで行きたいと思っております。

編集委員

事務局長 後藤 清美
事務局員 増 渕 充 恵
齊 藤 恵 子